

モンゴル国での マルチメディアDAISY図書の啓発活動

JICAウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト
長期専門家 東田全央

はじめに

このプロジェクトは、モンゴル国ウランバートル市を対象に、社会にあるさまざまな障壁（バリア）を取り除き、誰もが生活しやすい環境をつくることにより障害者の社会参加を促進することを目指し、モンゴル国労働社会保障省とともに活動を実施しています。「わいわい文庫活用術⑥」にて、前任者の磯部専門家のご紹介したように、このプロジェクトは情報アクセシビリティに関する活動も行っています。前回は、2017年に実施した出張上映会を報告しましたが、今回はその続編です。

関係団体へのヒアリング

2018年8月に、知的障害者関係の4団体にヒアリングを実施しました。「障害児親の会」のセレンゲ会長は、マルチメディアDAISY図書が知的障害者にとって有用なツールであると感じ、物語を音声と字幕で表示するDAISY図書を同会にて試作したとのことでした。

また、障害者支援団体「エネレルン・トゥーチャー」のバダンツェレン

会長は、モンゴル国内で知的障害者の発達保障の考え方が発展途上であり、アクセシブルな情報ツールとして同図書への期待を語っていました。ヒアリングをもとに、つぎのように新たな活動を企画しました。

新たな活動・企画

2018年5月に、モンゴル国立大学内にあるモンゴル日本センター図書室にモンゴル語版マルチメディアDAISY図書を寄付しました。これは、誰もが閲覧できる環境づくりの一環として行ったものです。知的障害者らとともに図書室の利用環境について確認したところ、個室スペースなどは無いものの、同図書をその場で再生することができるパソコンが利用可能など、利用環境が確保されていました。



モンゴル日本センター図書室にて利用環境チェック
(2018年8月)

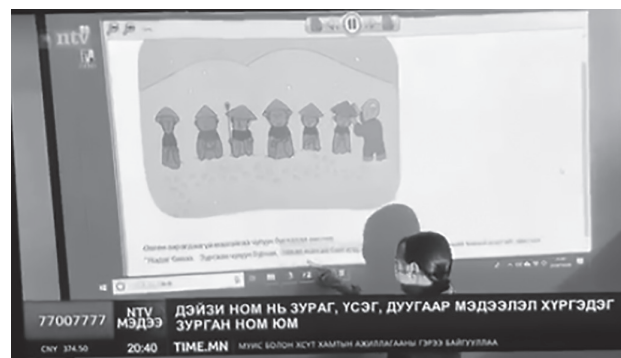
上記の関係者へのヒアリングと同図書室への配架を経て、知的障害のある青年層を対象にセミナーを行うことにしました。その目的は、同図書を広く知ってもらうことと、図書館のような公共施設の利用環境改善の重要性を共有することです。実際、関係団体へのヒアリングでも、「障害者が図書館を利用することはかなり少ない」という声が聴かれました。

また、前回の出張上映会では、知的障害当事者が同図書の紹介をしましたが、参加した障害当事者から「より身近に感じられる」、「ロールモデルになって良い」という意見があったこともあり、今回も障害当事者自身による紹介を企画しました。

図書館でのセミナー

2018年10月8日にモンゴル日本センター内図書室にてセミナーを開催しました。

知的障害者関連4団体から約25名の当事者、家族、支援者が参加しました。そのほか、労働社会保障省障害開発課の担当官と、モンゴル日本センター図書室から開会挨拶をいただきました。このセミナーは、モンゴル国内のテレビ局（NTV）1社とラジオ局2社からの取材も受け、同日にニュースでその様子が放映されました。



上映会のテレビ放映

このセミナーを上映会と体験ガイドスの二部構成で開催しました。第一部の上映会では、知的障害当事者のザヤさんが、スクリーンに表示されたモンゴル語版『かさじぞう』を読み上げながら、参加者に紹介しました。

続いて、「障害児親の会」のセレンゲ会長らが、自主版DAISY図書『まるい揚げパン』（ロシアの民話）を紹介してくれました。それぞれの物語の上映後に、参加者に何の話だったかを聞いたりするなどして、振り返りを行いました。参加者からは、「揚げパンが写っていた」、「話がわかってよかった」などの反応が聞かれました。



会場全体の様子

第二部の体験ガイダンスでは、図書室担当者が館内での利用方法について紹介しました。「パソコンを使って体験してみたい人はいますか?」と聞くと、最初は2名のみ手を挙げましたが、ガイダンスをはじめたところ「僕も」と数名が声をかけてくれ、最終的には多くの参加者が体験しました。体験した参加者は満面の笑みで「よかった」、「話がわかりました」と感想を話してくれました。



ガイダンスの様子

最後に、全体で意見交換を行いました。あるNGOのスタッフは、「今日はDAISY図書について初めて知ることができました。まだ地方では利用できる環境が整っていないので、使える環境が広がっていけば良いと思います。」と述べました。また、別の参加者は、「自分たちでもDAISY図書を作りたいので、作り方のガイダンスがあればうれしい」と語っていました。

このプロジェクトとしても、マルチメディアDAISY図書普及のためにできることを引き続き探っていきたいと思います。マルチメディアDAISY図書の認知度が増すことに加え、多くの公共図書館などに誰もが利用可能な環境整備が拡充されていくことが望まれます。



参加者全員で記念写真